

Gift for the Next 100 Years

Vol. 10

台湾のはじめてのキャンプから半年、2回目のグリーンキャンプを行いました。まだまだ暑さの残る9月、富士山を間近に見る静岡県の朝霧高原でキャンプです。国内だったからか、参加者は増えて17人でした。しかも台湾キャンプに参加した10人中9人がふたたびキャンプに参加してくれるという高リピート率！それだけ台湾キャンプが新しい体験にあふれ、楽しい時間を過ごせたということなのでしょう。しかし、朝霧でのキャンプも台湾に負けずと楽しいものになりました。

空を見上げてぼぉ～として、少し心が晴れやかになればいいな、という思いもあり名付けたSKY CAMP。ここではキャンプの様子を少しご紹介します。

あっという間に…

あちこちから集まったキャンパーが全員顔をそろえたのは、新富士駅に向かう新幹線の中でした。初めての子も、久しぶりに集まった子も、キャンプに期待を膨らませつつ、まだ緊張しているように見えました。新富士駅でバスに乗り換え、目的地の朝霧野外活動センターに向かいます。予定より少し遅れての到着でしたが、初めて訪れた場所に興味津々の様子。ワクワクと不安がまざり、どこか落ち着かない気持ちをキャンプリーダーがしっかり受け止め、引っ張って行ってくれました。

食堂でお腹を満たしたら、いよいよキャンプの始まりです。自己紹介をし、歌をうたい、ゲームをして、キャンプの話をししました。そのあとは、名札を作ったり、グループごとに夕飯のメニューを考えたりして、買い出しにも出かけました。出会ってから数時間で野外炊事というグループ共同作業で、スタッフには少し不安もありましたが、子どもたちはそれぞれグループでの役割をこなし、協力し合い、楽しみながら野外炊事に取り組んでいました。「美味しいね」と口々に言いながらごはんを頬張る子どもたちの顔には、達成感があふれているように見えました。

暗くなってからは、キャンプファイアーをしました。少しずつ大きくなるファイアーを囲み、ゲームをしたり、体を動かしたり、前に誘い出すと恥ずかしくて遠くに逃げてしまう子どもも多かったです。それでも、いつの間にかまたみんなのいる輪に戻って来ていま



自己紹介を兼ねたゲームで、一気に緊張もほぐれました。

したから、子どもたちなりにそんなやりとりも楽しんでいたのかもしれない。駆け足で過ぎた1日目は、あわただしさの分だけグループの関係を近づけたように思います。

思い思いに過ごす1日

朝霧という名前の通り、2日目の朝キャンプ場は霧に覆われていました。しかし、霧が晴れると富士山はどーンと構えた姿を見せてくれました。早起きした子は、まだ太陽の昇らないうちから富士山を見るために散歩に行ったようです。ちょうど富士山のうしろから太陽が昇るのを見た子は、「ダイヤモンド富士が見れたよ」と嬉しそうに報告してくれました。たとえ富士山を見るのが2回目だったとしても、この日メンバーやキャンプリーダーと見た富士山は前に見た富士山とは違うものとして、キャンプの大切な思い出のひとつになるのだと思います。

朝食を食べたあとは、グループでの自由活動でした。Tシャツの絞り染めにビーズのプレスレットやネックレスづくり、キャンドル、七宝焼などのクラフト、フリスビーやバスケットボールなど思いつきり体を動かす遊び、センター内の散策など。メンバーで何をするか話し合っ活動を楽しむうちに、メンバー同士の関係も、メンバーとキャンプリーダーとの関係も、さらに近づいたようです。



広場でのんびり過ごすのも大切な遊びの一つです。

この日は、「おもいでの日」と題し、自分の気持ちを確認したり、大切な人を思い出したりするきっかけとなるような活動を行いました。スーパーバイザーの西田さんのリードで、ここにいる人はみんな大切な人を亡くした経験を持っていて、このキャンプでは亡くなった人のことを話してもいい、安心な場所であることが伝えられます。そのあと、さまざまな感情を表現した顔のイラストから、今の自分の気持ちに近いものを選び、大きく描いたハートに貼り付け、周りをシールや色ペンで飾りつけました。

また夜には、キャンドルを見つめながらプロのミュージシャンの心地よい音楽を聴きました。リラックスした雰囲気の中で、子ど

SKY CAMP (スカイキャンプ) in あさぎり

ものころにお父さんを亡くしたリーダーの話を知りました。食い入るようにリーダーの話を書く子、神妙にしつつ穏やかな表情の子、気持ちが落ち着かずそわそわする子、子どもによってさまざまな対応がありました。そんなとき、キャンプリーダーたちは子どもの気持ちを受け止め、寄り添ってくれました。彼女らの存在もまた、このキャンプにはかかせない存在です。



いつもそばにいてくれるリーダーとのスキンシップが、安心につながります

📦 早起きの理由

2日目の夜から降り出した雨は、3日目も続きました。朝から夜まで1日中遊んだこともあり、キャンパーは雨の音も気にならないくらいぐっすり眠っていたようです。昨日も早起きしていた中学生のかなさんは、この日も朝早くからカッパを着て散歩をしていました。「早起きだね」と声をかけると、「だって楽しいんだもん。寝てたらみんなと一緒に過ごす時間が減っちゃうでしょ!？」という返事が返ってきました。

かなさんはキャンプに参加するのも初めてで、保護者からは「キャンプに申し込んでからずっと、初めてのことでだらけで不安なようです」と、うかがっていました。実際、引率スタッフも、出発時の不安そうな顔をしているかなさんのことは気になっていたようです。しかし、キャンプでの生活を過ごすうちに、かなさんは徐々にイキイキとした表情に変わっていきました。「本当に笑顔が増えたなあ」と感じているときの出来事でしたので、今回のキャンプも子どもたちにとって楽しい時間を過ごせる場所にできたのだと、確信を持つことができました。

📦 また来る!また会おうね

帰りの新幹線はお別れのときです。ここでお別れだと伝えると、それまでの笑顔も寂しそうな顔に変わります。もっと一緒にいたくて、お別れが寂しくて涙を流してしまう子もいたけれど、「楽しかった」「また来るね」「次まで勉強頑張る!」など、みんなそれぞれに

また会える日を思ってお別れすることができたような気がします。

2日目の夜ごろから耳にするようになった「次のキャンプも来るね!」という声は、最終日にはほとんどのキャンパーから聞くようになっていました。しかしその想いは、初めて参加した子の方が強かったように感じます。もちろん、今回のキャンプが2回目の参加になる子どもたちも笑顔で「また来る」と言ってくれたのですから、楽しくなかったということではないと思います。ただ、「またね」と言って別れた友達と、本当にまた会うことができるということが一度実現されているからでしょうか。何となく気持ちに余裕があったのではないかと考えています。これは勝手な解釈かもしれませんが、子どもたちが「また来るね」と言ってくれるのは、私たちの行うキャンプが楽しい時間を過ごせる場所であり、次もまた行きたいと思える安心できる場所だから、ということを伝えてくれているような気がしています。もしそうだとしたら、それはとても嬉しいことだと思います。



雨で牧場に行けなかったかわりに、車でアイスクリームを食べました。

今回のキャンプは、ゆっくり過ごしてもらいたいと思いつつ、あれもこれもとプログラムが少し詰まってしまったような気もしています。プログラムも大切ですが、子どもたちからすれば、富士山を見たとか、テントで寝たとか、雨が降ってカッパを着たとか、案外私たちが用意したプログラムではない小さなことの方が「キャンプ楽しかった!」と思う理由になるのかもしれない。

今回のキャンプもグループリーダー、プログラムディレクター、スーパーバイザー、キャンプディレクターなどが、個々の役割をきちんと果たすことで無事終えることができました。次のキャンプは4泊5日です。2泊3日という短い日程で見せる姿とは異なる姿を見せてくれるのではないかと考えています。私たちのキャンプはまだ完成形ではありません。今回の経験を生かして、リーダートレーニングのプログラムをしっかりと組み立て、十分に準備を尽くし、このキャンプがキャンパーにとっての大切な場所になるよう、一層の努力をしたいと考えています。